

➤ カラーユニバーサルデザインで改善しよう

カラーユニバーサルデザインで最も大切なことは、誰にでも分かりやすい色を使うことです。

さらにカラーユニバーサルデザインの3つのポイントに配慮することにより、できるだけ多くの人に情報が正確に伝わるようになります。









カラーユニバーサルデザインの3つのポイント

- ・できるだけ多くの人に見分けやすい配色を選ぶ
- ・色以外でも情報が伝わるよう表記や図表を工夫する
- ・色の名前も用いてコミュニケーションをとる

◎ できるだけ多くの人に見分けやすい配色を選ぶ

- ・色を変える
彩度は「高い色」と「低い色」を組み合わせ、明度は「明るい色」と「暗い色」を組み合わせると見分けやすくなります。
- ・色の濃淡・明暗の差(コントラスト)をつける
背景の色と文字の色に明暗の差をつけると見分けやすくなります。

【具体例:彩度・明度の変更】

	改善前	改善後
一般色覚者	 	 
色弱者(P型)	 	 

～誰でも、いつでも、体験できます～

● 色弱体験ソフト(無償)の紹介 ●

様々な色覚特性の色の見え方を体験することができます(スマートフォン、コンピュータのブラウザなどに対応)。内蔵カメラまたは画像ファイルから得た画像をリアルタイムに変換し、シミュレーションを行います。

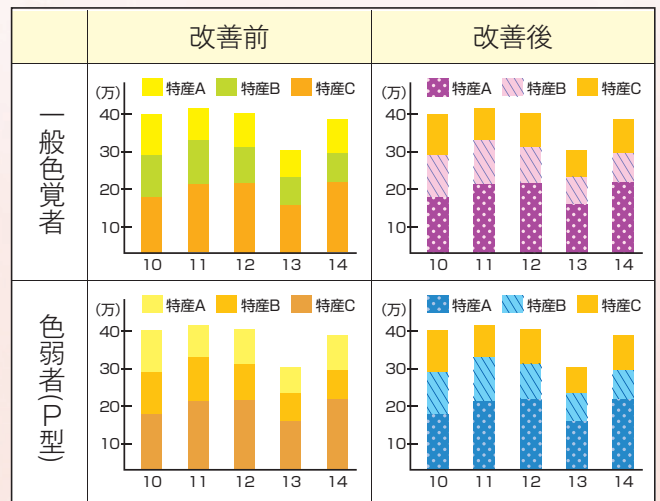
色のシミュレータ

検索

◎ 色以外でも情報が伝わるよう表記や図表を工夫する

- ・形を変えたり、文字のふちどりをする
形を変えたりマークを併用したり、文字のふちどりをしたりすると、色を見分けにくい人にも伝わりやすくなります。
- ・ハッチング(模様)をつける
地図やグラフなどは、斜線やドットなどの模様をつけると伝わりやすくなります。
- ・文字や線を太くする
太い線など面積が大きいほど色を感じやすく、色の違いがわかりやすくなります。

【具体例:ハッチング】



◎ 色の名前も用いてコミュニケーションをとる

色の名前を記載すると伝わりやすくなります。

【具体例:申請用紙】

